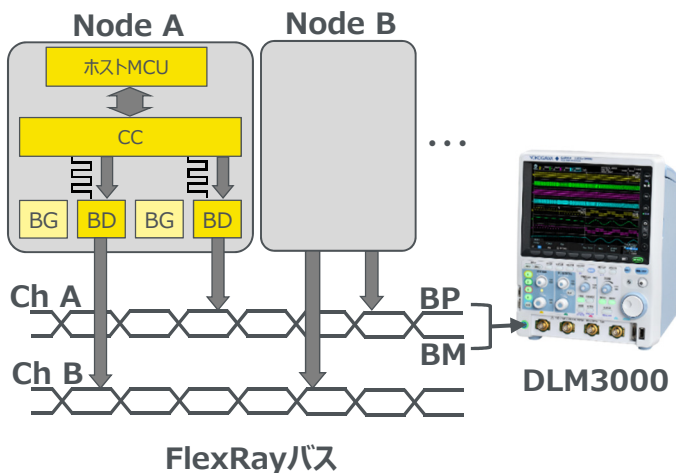


ミックスドシグナルオシロスコープ DLM3000

FlexRay物理層波形観測 & プロトコル解析



概要

FlexRayは、車載向け通信バス規格で、高性能アプリケーションに主に使われています。FlexRayは、非シールドのツイストペア・ケーブルを利用し、機器間を接続します。

DLM3000は、オプションでFlexRay Protocol Version 2.1に対応した信号解析機能を用意、Frame Start/ID/Cycle Count/Dataなどの条件に加え、CRC/BSS/FESのエラー発生時にトリガをかけ、FlexRay物理層電圧波形を捕捉することができます。

波形表示と同時にプロトコル解析結果リスト表示、デコード表示が実行され、トリガごとにリアルタイムで波形表示更新します。物理層波形とプロトコル解析結果リストを関連付けて同一画面で確認（デバック）できます。

バスドライバの電気特性試験で要求される専用パラメータ測定や、BSSビットの時間間隔を測定することで、通信遅延やサイクル時間変動の評価を行なうことも出来ます。

ポイント

- Frame Start, Error, Indicator, ID, Cycle Count, Data1、およびData2 のAND 条件、ID ORでトリガ可能
- 面倒な初期設定を自動で行うオートセットアップ機能
- ビットレートの8 倍のサンプルレートでサンプリング後、フィルタ機能を使ってノイズを除去
- デコード表示、リスト表示
- バス信号の検索機能

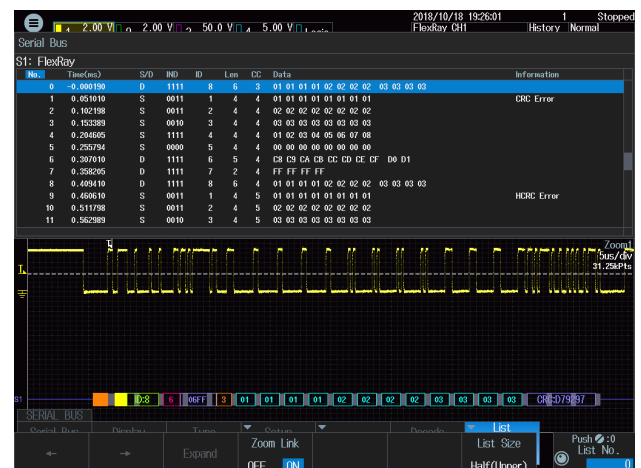
特長

■ ロングメモリーによる長時間捕捉

最大500Mポイント（/M2オプション）のロングメモリーを搭載でき、サンプルレート125MS/sで、最大4秒の波形を捕捉できます。

■ オートセットアップ機能

ビットレート、バスチャネル、サンプルポイント、レベル、ヒステリシスを自動的に設定し、FlexRay バス信号のフレームの開始位置(Frame Start) でトリガをかけます



FlexRayバスの解析とリスト表示例